



大杉栄

白壁町にあった名古屋陸軍幼年学校で奔放な学生生活を送った事が、のちの思想形成につながる。



葉山嘉樹

名古屋セメント、名古屋新聞に勤務。労働争議で千種監獄に投獄された時に代表作を執筆。

堺利彦、葉山嘉樹・鶴田知也の三人の偉業を顕彰する会蔵



金子光晴

関東大震災の被災後、清水町に住む牧野吉晴のもとにしばらく身をよせ、詩風の転換を図ろうとしていた。



木下空太郎

愛知県立医学専門学校(現名古屋大学医学部)教授として赴任。武平町に住み、小酒井不木らの名古屋の文化人と交流する。

伊東市立木下空太郎記念館蔵



郁達夫

留学生として第八高等学校(現名古屋大学)に学ぶ。中国文学界での先駆的な作品『沈淪』はこの頃の名古屋南部を背景に描かれた。



永瀬清子

愛知県第二高等女学校(現明和高校)に学ぶ。下野杉の町に住み名古屋の詩人たちとも交流しつつ、詩人となる決意を固める。

赤磐市教育委員会蔵



矢田津世子

兄の転勤に伴い千種町に居を移し、兄の影響で小説家をめざす。『女人藝術』に参加し文学の道に進む。

五城目町教育委員会蔵



◆山下達治◆ 1949年名古屋市生まれ。郷土文学研究会員、あいち文学フォーラム呼びかけ人。名古屋に関わる近代文学者の調査研究を行う。中生涯学習センターで『逍遙の開いた扉』、文化のみち二葉館で『逍遙の原点・美濃太田と尾張名古屋』などの講師。主な論文「小栗風葉と『青春』」など。



◆三田村博史◆ 1936年岐阜県根尾生まれ。第2回石森延男児童文学奨励賞、第4回海外紀行文学賞、第1回中部ペンクラブ文学賞、2004年2月名古屋市芸術特賞を受賞。著書に「姜の亡命」「漂い果てつ」など。新刊に「東海の文学風土記」。

◆トークイベント「近代文学における“名古屋”を語る」

流星の文学者7人の人物像と、それぞれの作品や時代背景にふれながら、近代文学における“名古屋”という地域性についてお話し頂きます。

■対 談：山下達治(あいち文学フォーラム)、三田村博史(中部ペンクラブ会長)

■日 時：平成28年2月28日(日)
13:30~15:00

■会 場：文化のみち二葉館 1階大広間
※入場無料(要入館料) 当日先着順自由席



左上より『沈淪』郁達夫著、『大杉栄自叙伝』大杉栄著、『食後の唄』木下空太郎著、『矢田津世子全集』矢田津世子著、海に生くる人々』葉山嘉樹著、『どろろ杯』金子光晴著、『あけがたにくる人よ』永瀬清子著

主催・お問い合わせ

文化のみち二葉館
【名古屋市旧川上貞奴邸】

〒461-0014

名古屋市東区榑木町3丁目23番地

Tel, Fax 052-936-3836

http://www.futabakan.jp/

「ドニチエコきっぷ」「一日乗車券」

を利用してご入館の方は入館料割引 一般200円→160円



交通のご案内

- なごや観光ルートバス「文化のみち二葉館」下車
- 市バス「飯田町」下車、北に徒歩2分
- 基幹バス2号「白壁」下車、南に徒歩5分
- 地下鉄桜通線「高岳」下車、2番出口より北に徒歩10分
- 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南に徒歩12分

※駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

